

科 目		必・選	担 当 教 員		学年・学科			単位数	授 業 形 態				
工業外国語 Technical English for Engineering		選	西畑 秀夫		4 学年 環境都市工学科			1	前期 週 2 時間				
授業概要		外国語、ここでは特に技術英語の基礎を学び、英語で書かれた仕様書やマニュアル、さまざまな文献、技術論文などの読解力を養います。 また簡単な技術文章を英語で作成でき、かつ口頭で発表出来るようにします。											
到達目標		英語で行われる授業は60%以上理解できる。 演習で行う技術文献は辞書使用で母国語に翻訳でき、課題のレポートを作成して英語で発表できる。											
評価方法		2回の定期試験を60%、授業中の演習や、課題のレポート作成と発表を40%として評価する。											
教科書等		プリント配布。 副読本： 工業技術英語 高橋晴夫著 森北出版 技術英語表現ハンドブック 藤岡 著 工業調査会											
内 容									学習・教育目標				
第 1 週	オリエンテーション 授業についての概略説明 技術文献プリントの翻訳							D					
第 2 週	工業技術英語の基礎 (1) 構文パターン、 技術文献プリントの翻訳							D					
第 3 週	“ ”	(2) 動詞の基本用法、 技術文献プリントの翻訳					D						
第 4 週	“ “	(3) 助動詞のパターン、 技術文献プリントの翻訳					D						
第 5 週	“ ”	(4) 不定詞のパターン、 技術文献プリントの翻訳					D						
第 6 週	課題のクラスでの発表、質疑、応答							D					
第 7 週	“ ”								D				
第 8 週	“ ”						中間試験		D				
第 9 週	工業技術英語の基礎 (5) 動詞＋ing パターン、 技術文献プリントの翻訳							D					
第 1 0 週	“ ”	(6) 修飾語のパターン、 技術文献プリントの翻訳					D						
第 1 1 週	“ ”	(7) 関係代名詞のパターン、 技術文献プリントの翻訳					D						
第 1 2 週	“ ”	(8) 接続詞のパターン、 技術文献プリントの翻訳					D						
第 1 3 週	課題のクラスでの発表、質疑、応答							D					
第 1 4 週	“ ”								D				
第 1 5 週	“ ”						期末試験		D				
第 1 6 週													
第 1 7 週													
第 1 8 週													
第 1 9 週													
第 2 0 週													
第 2 1 週													
第 2 2 週													
第 2 3 週													
第 2 4 週													
第 2 5 週													
第 2 6 週													
第 2 7 週													
第 2 8 週													
第 2 9 週													
第 3 0 週													
(特記事項)			JABEEとの関連										
			JABEE	a	b	c	d1	d2a) d)	d2b) c)	e	f	g	h
			本校の学習	A	A	C-1	C-1	C-2	B	B	D	C-3	B
			・教育目標								◎		

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。(【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつになります。)

工業外国語 環境都市工学科 内容説明

国際化時代の今日、あらゆる分野で英語は日常生活に不可欠であり、特に技術者は英文の仕様書やマニュアルを読解したり作成したりします。また英語による会議や打ち合わせの機会が増えています。もうすでにビジネス界での仕事の標準語が英語になっているわけですから、このクラスを受講する学生達は卒業するまでに工業英語は必ず体得されることを強く望みます。

そのためにも、このクラスは私が一方的に教えるのではなく、生徒達が積極的に自分のレベルにあった課題やプリントにチャレンジして実力をつけていただきます。クラスの講義は出来るだけ英語で行われます。生徒達の英語での課題発表の機会を多くし英語コンプレックスを取り除いていただきます。

第1週—第5週

副読本「工業技術英語の基礎」を用い、技術英語独特の簡潔な表現方法に少しずつなれる。簡単な構文パターンを学ぶ。

プリント文献：(1) 環境都市工学科一般の文献
(2) 構造工学
(3) 橋梁工学
(4) 土質工学
(5) 橋構造

第6週—第8週

英語での5分間スピーチ。英語の上手下手ではなく、いかに聞き手とコミュニケーションを取れるかを目的とする。課題は自由。一人5分以内。

第9週—第12週

技術英語の応用としてやや複雑な構文を学ぶ。専門用語はすべて覚える。

プリント文献：(6) 環境問題一般
(7) 地球温暖化
(8) ソーラーエネルギー
(9) 地熱発電

第13週—第15週

課題発表：短い文献を英語で書けるようになり、英語で考えながら発表ができるようになる。

2人か3人のグループでの発表。10分以内。課題は自由。